

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.25	行	16行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(東園田地区)		河川名	藻川			
府県	兵庫県	市町村	尼崎市		地先	東園田	

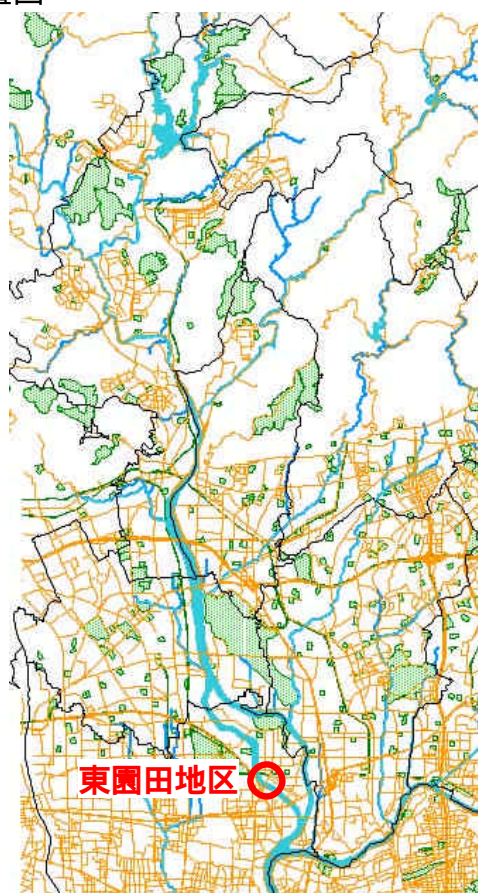
現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向に連続性を持った生物の生息・生育環境を確保するとともに、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

検討内容

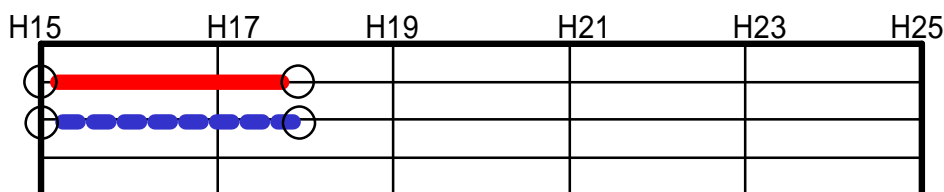
- ・モニタリング方法の検討
- ・保全地区及び再生地区の選定
- ・汽水域を保全・再生するための方策の検討
- ・住民意見の反映方法の検討
- ・改善後の河川環境の保全・再生の予測

東園田地区

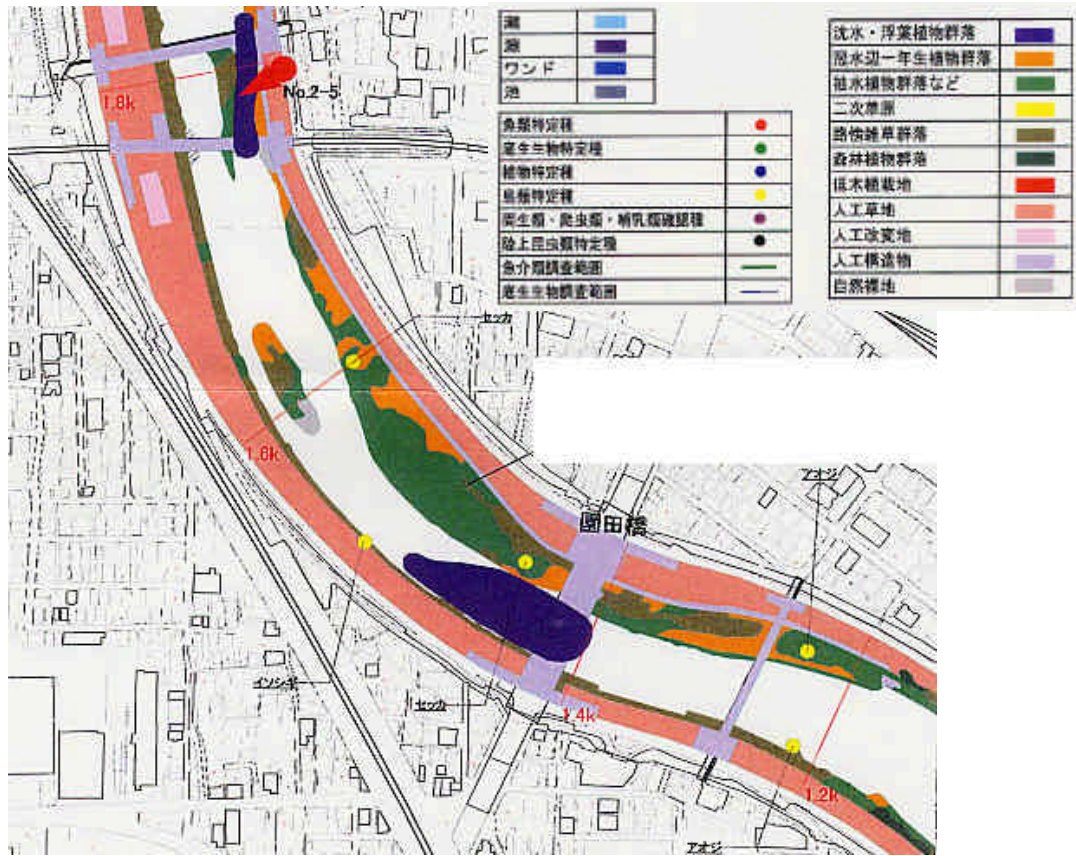
検討範囲 延長 : 約 600m

スケジュール

- 検討
- 委員会



平面図



現況写真



秋の開花時期

オギ群落

整備効果

1. 事業効果

現在でもまとまった規模のヨシ群落があり、この汽水域を好み生息・生育する動植物も確認されるなど汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残されている。

本検討に基づき事業を実施した場合、これまでの藻川下流部の汽水域のヨシ原が保全、再生されるとともに、それらを生息地とする動物の生息環境の保全、再生が期待される。

環境保全・再生の事例

読売新聞 平成11年9月14日



生物をはぐくむ場所として復活したヨシ原＝加古川市、加古川下流

加古川下流での河川改修と、建設省姫路工事事務所が初めて移植作戦を実施していたヨシを救出しようとしていたが、移植したヨシが順調に生育していることなどが、同事務所の調査で分かった。周辺ではメタカヤワ

ヨシ原復活
加古川改修で
移植作戦成功
生態系も

追跡調査は昨年七月と十一月に実施した。七月の段階ではまだ泥地が自立していたが、十一月にはほぼ全面をヨシが覆った。現在は二メートル以上に育ったヨシがうっそうと茂り、ほぼ工事前の姿に戻った。

ヨシは水湿地に群生する多年草。窒素やリンを吸収するため水質浄化に役立つ。鳥や魚のすみかにもなる。同川下流には両岸に広大なヨシ原が広がり、貴重な生態系が残されている。救出の対象となったのは、最下流にほど近い山陽電気鉄道から上流にかけての約一・五キロ間。耐震護岸工事を実施するため、一九九六年七月、根が付いたままの状態を工区外に仮移

も根が浮いてしまっケースが多いが、捨て石などを活用してうまく定着した。植

提案理由(代替案含む)

1. 箇所決定理由

この地区は、現在でもまとまった規模の汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残っている。これらの環境の保全・再生を図ることで、これらを生息地とする動植物の生息・生育環境を保全・再生する効果が期待される。

2. 具体的検討手法

•モニタリング方法の検討

必要な生物生態の調査(魚介類、鳥類、動植物、等)

必要な物理環境の調査(土壌、地形状況、水位、流量、冠水頻度、等)

必要な水環境の調査(水質、底質、等)

•保全地区及び再生地区の選定

•汽水域を保全・再生するための方策の検討

河道特性(生態系、物理環境、水環境)に応じた形状の設定

•住民意見の反映方法の検討

•改善後の河川環境の保全・再生の予測

必要な生物生態の予測(植物、魚類、底生動物、鳥類、等)

必要な物理環境の予測(地形変化、冠水頻度、河床材料、等)

必要な水環境の予測(水質、底質、水温、等)